№93　　1998年7月7日発行

高退協ニュース

高知高退協事務局
同高知高退職教職員協議会事務局
1998・7・7
No.93

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸ノ内二丁目一の一〇
教育会館内　高教組気付
TEL　〇八八八―二二―六八二二
振替口座　徳島　五―一―一八九三

参議選直前
最後のふんばりを

参議選の投票日十二日は目前です。会員みなさんのご協力によって六月三十日現在のとりくみの状況は次の通りです。

情勢は明かにわれに有利と思われますが、なにしろ相手は自民党、少しの気の弛みも許されません。「西岡当選」のため最後の奮闘を心からお願いします。

高退協事務局

1. 支持拡大・対話　目標八〇〇〇にたいし四一〇〇、
2. 「とりもどす会」へのカンパ　目標三〇万円にたいし一一万円（六七名拠出）、
3. 「無党派の挑戦」の購読　目標五〇冊にたいし三五冊、となっています。

全退教
第8回定期総会終わる

6月3日、東京都内の全教本部ビルの七階に全国33都道府県、42組織の代表85名が参加し全退教第8回定期総会が開催されました。高知からは竹村昭三（県退教）岡崎清恵（高退教）西森稔四プロ担当）の三名が出席しました。

総会は、所定のセレモニーの後、協議に入り、①決算監査報告、②予算案、③経過報告および運動方針案が審議され、すべて異義なく承認されました。

役員選任では、会長が藤森氏から有賀氏に、事務局長が松原氏から井上氏に変わった以外は現職の留任が認められました。

午後からの討論では、20名の代表が原案を支持した上、各組織の取組みと教訓を発表し議案を豊かなものにしました。竹村、岡崎の両名も討論に立ち、参議選での「無党派と日本共産党の挑戦」について報告、出席者の共感と支持を得ました。

二万五千名の会員に発展した全退教の今後のいっそうの活躍が期待できる定期総会となりました。会終了後の慰労交流会にも高知の三名を含む約四十名が集い交流を深めました。とくに秋の香川での学習交流集会と第四回全国ツアー（高知）への多数参加をよびかけました。（岡崎）

夏季学習講座

日時：1998年8月28日（金）
PM. 2：00～

場所：高知城ホール2階　会議室

内容：①上岡積さん「ジョギング讃歌」
②中内光昭さん「DNAの話」

続いて5時から懇親会をもちます。
会費は5，000円です。
参加される方は準備の都合上、8月22日（土）迄に下記あてご連絡ください。
小島真子　0888-43-3007
古味忠男　0888-73-7123
窪田一郎　0888-44-0333
尚、ハガキでの場合は
高知市丸ノ内2－1－10
教育会館内高教組気付
高退協　あて
沢山のご参加をお願いします。

研修旅行ご案内

恒例の研修旅行は、来る11月5日（木）6日（金）に淡路島・鳴門方面へと計画しました。

見学場所は、藍染工芸館・大谷焼窯元・野島断層保存館・淡路人形浄瑠璃館・大塚国際美術館など盛り沢山に用意しています。

ことに大塚国際美術館は、6月19日付の高新に全面カラー刷りで紹介された陶板美術館で、その技術の高さ・色彩の美しさ・そして世界の名画を一堂に集めてオリジナル作品と同じ大きさで見せるという画期的な試みのすばらしさなど話題を呼んでいます。そのほか阪神大震災の傷あとをそのまま見ることのできる断層保存館、傾城阿波鳴門の名場面の実演がある淡路人形浄瑠璃館など、皆さんに喜んでいただけることでしょう。

バスは、窪川・須崎・土佐市・高知駅・南国の5ヶ所で乗降できるので、西の方も参加しやすいと思います。

費用は、31名以上なら3万4千円の予定です。（他に宴会のお酒代を集めます）

年に一度、仲間とゆっくりできるチャンスです。

是非お誘いあわせの上、ご参加ください。

〆切り　8月末日

申込み先
窪田一郎　44－0333
西田令子　42－2070
山脇正照　94－2523
小島真子　43－3007

草声老語

▼参議選の投票日間近か。選挙の結果が気になるところ。恒例の週刊誌による各党の獲得議席の予測は概ね次の通り▼自民・六〇台、民主・二〇台、共産・一〇台、公明・一〇台。社民、自由、さきがけは数議席がやっと。▼関心のもっとも深い高知選挙区はどうか。「朝日」は「高知は共産が強いところ。西岡有利だったが、民主推薦が出ることで野党票が分散」と分析。▼いわゆる自共対決で森下・西岡の激しい競り合になっていることは間違いない。その中で素人眼には公明の動向が気にかかる。同党は比例一本だと言われているが、何が起こっても不思議でないのが政治の世界。▼それに自民党の組織力。最近の熊本を含めて衆議補選六連勝。金としめつけによる集票力は侮れない。▼自民党流の専政にたいする怨嗟は列島に満ちあふれている。政策的には無党派プラス共産の西岡陣営が他陣営を圧倒しているが、勝負は数百票の僅差になるかも知れない。▼この選挙の結果はこれからの政治の流れを変えるものと言われている。▼「新自由民権運動も土佐の山河より」西岡当選をどうしてもかちとりたい。ことの成否は最後のひとおしにかかっているようである。（幹）

訃報

会員の安岡桑一先生が四月五日に、時久完先生が四月十二日に、浜田浩一先生が五月二十日に死去されました。

ご冥福を心からお祈り申し上げます。

「泰泉寺日記」抄

坪井　幹之

五月

[三日] 憲法記念日。「5・3県民のつどい」に参加。沖縄国際大学の安仁屋教授の記念講演は内容が具体的であるだけに琴線に触れるところが多かった。

[十二日] 一時より「ニュース」発送準備。続いて高退協事務局会議。新年度の事務局体制、会員の拡大、夏季学習講座、参議選、互助会の医療費補助問題等について協議。

[十五日] いろんな事情で遠のいていた「老泳会」に参加。四名全員で泳ぐ。

[二十九日] 「老泳会」。全員参加。梅雨近し。

[三十日] 「高退協読書会」。六名の参加。はじめにホラー小説「狗神」の合評。物語の展開がややリアリティーに欠けるとの批判的意見も。「DNAがわかる本」は読解力の弱まった年寄りには多少難解、「よくわかった」とまではいかなかったようである。遺伝子工学など二十一世紀の展望を話し合う。次回は岩波新書の「日本社会の歴史」を取り上げることにして散会。

[三十一日] 雨天で延期になっていた三嶺登山へ。山本リーダー以下「山の会」十四名、祖谷側の登山口から頂上を目指す。天気は快晴、緑風の吹き通る原始林を登ること二時間、四国各県の登山者で賑わう海抜一九〇〇米の山頂に立つ。剣、次郎笈、石立、白髪の高峰が指呼の間に。お目当てのコメツツジは蕾がちらほらの程度。昼食後、一気に下山。祖谷トンネルを抜けたところで解散式、五月例会無事終了。

六月

[二日] 「山の会」北欧ツアーの説明会を開く。ツアー参加者二十五名全員参加。富士国際旅行社より来高の市原社長と今野氏より旅の説明を受ける。終了後、「華珍別館」で両氏を囲んで恒例の会食。

[五日] 「老泳会」入梅でプールは閉散、いつもより早くノルマ終了。

[六日] 「山の会」運営委員会。五名全員参集、今年度の計画、来年度の海外旅行等について検討。

[七日] 西岡後援会「とりもどす会」の全県活動者会に出席。一七〇名の参加。栗原選対本部長より情勢報告と活動方針の提起を受けて討議。選挙終盤の熱気の伝わる集いであった。

[九日] 高退協事務局会議。当面する参議選、夏季学習講座、ニュースの編集などいくつかの議題について協議。終了後、新旧役員の歓送迎会。浜田顧問音頭の乾杯で開宴。去るもの来たるもの計六名の方より挨拶あり。参加者二十一名盃を交わし歓を尽くす。

[十一日] 高退協と高退教後援会との合同選対会議。これからの会議のあり方について激しい論議となる。高退協の選挙活動はそもそもどうあるべきか、この「そもそも論」をめぐる意志統一は残された課題。これからの実践の中で自ずから結論が出てくるであろう。たまりの当番など次の一週間のとりくみを決めて散会。

[十二日] 「老泳会」で泳ぐ。

[十五日] 志位書記局長の演説会に参加。四千名参集。無党派プラス共産党の総決起集会となる。

[十八日] 合同選対会議。告示日までのとりくみを協議。

[十九日] 「老泳会」全員参加。金曜は競輪で駐車に困惑することが多いので定例日を火曜に変更。

[二十一日] 「山の会」六月例会。雨の中、工石山を目指す。参加者十二名。小坂峠の途中で、車一台がスリップ事故。雨足も次第に激しくなってきたので思い切って登山を中止。

[二十三日] 梅雨前線の活動活発、連日雨。「老泳会」に参加。競輪で駐車場満車。

[二十五日] 参議選公示。西岡さんの出陣式に参加。八百名の集まり。引き続いて合同選対会議。

私の健康法

テニス讃歌

松下敏彦

68歳になってテニスをはじめた。なんと年齢錯誤か。それに運動はしたことがないし、子供のときはゴムボールの乏しかった世代なのに。

物置を整理していたらラケットが出てきた。高級品らしい。とたんに息子のやつ、こちらがせっせと送金したのにこんなことで遊びおったのかと、十数年前をくやしがる。

いつか「高退協だより」にテニスは歩くことさえできる人なら可能とあったのを思い出すが、新米で、ボールを拾いに走り回ったり、怒られたりするのも嫌だ。

ある日、トレパン着てラケットをさげて春野のコートに行く。これだけでも感激。一度はやってみたかったこと。いってみると、クラブのメンバーは皆紳士である。親切に教えてくれてボールまで集めてくれる。恐縮する。

ひとつのボールをうちあっては、拾いに走る姿を想像していたが、全く違っていた。籠いっぱいのボールをつぎつぎと打ち出してくる。それを打ち返すのだから楽だし、面白い。当たる瞬間の衝撃とこちらが貯めたエネルギーがボールに移って飛んでいく感触がいい。快カーン。いつまでもやっていたくなる。

汗がふき出てくる。ウーロン茶のガブのみをする。酒毒、薬毒、その他五臓六腑の諸毒が流れ出て、そう快。帰ったらシャワーをあびて昼寝。天国だ。

説によると、体力は、右肩下がりの長期低落傾向の最終段階にあるから、ここで技術をゼロから打ち上げても、その交点から上に出ないと。

通いだして半年が過ぎた。やっと空振りが少なくなったが、ボールは勝手に飛んでいく。まだゲームにはならない。だが、人との楽しい語らいや自分自身の充実感を求めてコートに出ている。

『老・眼・鏡』

岡本彌太詩集『山河』

山川久三

高知の近代詩の始祖というべき位置にある岡本彌太には、第一詩集『瀧』第二詩集『山河』と、二冊の詩集があります。彌太は生前『瀧』を刊行したのみで、『山河』の方は上梓できずに昭和十七年に世を去りました。

高知出身の川島源太郎さんが彌太顕彰の志を立て、私とチームを組んで、昭和六十年にまず『瀧』を復刻刊行しました。有名な「白牡丹図」は、この詩集の冒頭に収められています。それから十三年、このほどやっと『山河』の公刊を果たすことが出来ました

『山河』には『瀧』以降の作品、とくに代表作「黒潮」が収められていて、日本列島弧を大きくつかむ視点から日本の民族と民俗を描いたスケールの大きさに、今なお驚かされます。終生土佐の辺地の一教師として貧窮を生き、酒を愛し、結核の宿痾に悩まされ、四十三歳で早世した彌太でしたが、その遺した詩篇のかずかず―人生の貧の現実を、別離の哀しみを、深い諦念を、実存の光のもとに照り返した作品群は、現在の私たちをも撃つ力に満ちています。

県立城東中学（現・追手前高校）で、戦後、国語の時間に今は亡き中村伝喜先生に教わったのが、私どもの〈彌太体験〉の初めでした。伝喜先生は、粗末な仙花紙に「白牡丹図」や「瀧」や「白痴平吉」や「とみこ」などをガリ版で刷って、ほとんど泣かんばかりの熱誠を込めて教えてくれました。

一冊でも多くの彌太詩集をお買い求め頂き、不遇の生のかなたから人性の姿のありのままを愛した彌太詩の心が広がってゆくことを念じてやみません。

（購入申込先→〒4010501・山梨県山中湖村富士桜ケ岡1―26　泰樹社・川島源太郎。定価―『瀧』三八〇〇円、『山河』五八〇〇円。各限定千部愛蔵版。電話連絡―0555・62・1207）